個人名が付されている公共図書館について

告 上　勝 哉

はじめに

社団法人日本図書館協会発行の『日本の図書館』2008 年版によれば、公共図書館数は 2007 年度 3,106 館と計数されている。そのなかに、個人名が付されている図書館が 8 館記載されている。県別にみると、青森県に１，福島県に１、群馬県に１、長野県に１、兵庫県に１、大分県に 3 館、合計 8 館となっている。一般的に公共図書館の呼称はその地名を冠して、〇〇立図書館、または〇〇民図書館となっているのが普通である。公共施設に個人名が付されているのは特別なことであり、大きな理由があると思われる。個人の業績を顕彰し後世に伝えるためやその施設に大きな貢献をしたことに対す感謝の念を表明するためなどである。利用者として自分が利用している図書館が先人の貢献によって設立されたことを知って図書館を利用することは意義のあることである。WEB ページやその他から個人名が付されている理由など調査した結果を紹介する。

なお、私立図書館においては、個人が設立した場合が多く、設立者を顕彰するために館名に個人名を付している図書館が多い。これらの図書館のうちとくに児童を対象とした図書館について『司書課程年報』No.12 に掲載した。

・[五所川原市]伊藤忠吉記念図書館

所在地：〒037-0202　青森県五所川原市金木町芦野 345-12

電　話：0173-53-3049

開　設：2004 年

床 面 積：377.92 ㎡、1 階建て

奉仕人口：6 万 3 千人（全市対象）、市内に五所川原市立図書館、五所川原市立浦分館計 3 館

蔵書冊数：13,418 冊（記念図書館の冊数 2009 年 10 月現在）

開館時間：火～日曜　午前 9 時 30 分～午後 5 時

休 館 日：月曜日、毎月第 3 木曜日、国民の祝日、年末年始など

名称の由来：伊藤忠吉氏（1911～1999）五所川原市旧金木町に誕生、公認会計事務所を首都圏で開業。1993 年から出身地の金木町に寄付を続け、奨学金制度を設立し、青少年の育成に寄与するなど金木町に多大な貢献をした。忠吉氏亡き後も遺族は氏の遺志を汲み寄付を続行した。金木町は、伊藤家の了承の元に受贈した寄付金で、旧法務局を買収、修理の上新たに蔵書 3.000 冊を購入して図書館を設立した。伊藤氏の恩義に報いるためその名称を「伊藤忠吉記念図書館」とした。館内の一室に氏の遺品と年譜などを展示して、感謝の意を表明している。金木町が 2005 年に五所川原市と合併した後も、五所川原市伊藤忠吉記念図書館として現在に至っている。

左写真
五所川原市
伊藤忠吉
記念図書館

右写真
伊藤忠吉氏

図書館蔵書の特色：五所川原市出身の太宰治氏関係図書を 3 館合計で約 1,200 冊所蔵して太宰治研究に便宜を図っている。
伊藤家の意向により利用者に親しみやすい図書館となることを心がけているとのことである。個人が創設に係った日本で非常に珍しい図書館である。(写真を含めて情報は伊藤忠吉記念図書館から提供)

・[白川市立]中山義秀記念文学館・図書館

所在地：〒969-0309　福島県白河市大信町屋字沢田 25 番地
電　話：0248-46-3614
開　設：1993 年創設　中山義秀記念文学館義秀館、図書館、ふるさと文化伝承館 3 併合施設　（中山義秀記念文学館義秀館、ふるさと文化伝承館は入館料必要）
床 面 積：411 ㎡、1 階建て
奉仕人口：6 万 6 千人（全市対象）市内他に白川市立図書館、表郷分館、東図書館
開館時間：火曜日～金曜日　午前 10 時～午後 6 時　土・日・祝日　午前 10 時～午後 5 時
休 館 日：月、祝日の翌日、年末年始
蔵書冊数：3 万 5 千冊

（下写真：中山義秀記念文学館・義秀館前景）

名称の由来：中山義秀（1900～1969）福島県岩瀬郡大屋村（現在白河市大信町）に誕生。作家。
1938 年『厚物咲』により第 7 回芥川賞受賞、
直木賞銓衡委員となる
1964 年　野間文芸賞受賞
1969 年　日本芸術院賞受賞
中山義秀の年譜、作家、作風、作品などについては、中山義秀記念文学館・義秀館を参照)。
中山義秀の「生き方」、「生き様」を後世に伝えるために、1993 年 4 月にふるさと創生事業の一環として図書館を備えた「中山義秀記念文学館」を設立いたしました。義秀の生涯を「孤高の文士」・「求道の精神」・「魂のふるさと」のコーナーに集約し紹介、展示している。

世界が政治的にも経済的にもそして人間の価値観そのものも混沌としている現在の社会において、この「中山文学」に触れることによりそれぞれの自分を見直して頂ければ幸いです。（中山義秀記念文学館・義秀館の WEB より）

旧大信村が「ふるさと創生事業」の一環として芥川賞作家・中山義秀を記念し、1993 年に創設した、全国的にも珍しい村立の文学館であった。ふるさと創生事業は 1988 から 1989 年にかけて日本で、各市町村に地域振興を目的に自由に使える基金として 1 億円が交付されたが、場当たり的な事業が多く、無駄遣いの典型として揶揄されることも多かったが、この記念館建設は事業本来の趣旨に合致したすばらしい事業であったといえる。

図書館　図書開架閲覧室

児童室：物語の本と調べる本コーナー

館名に因んだ行事として「中山義秀文学賞」を第 1 回（1993 年度）から行い、第 9 回（2003 年度）文学賞から「公開選考」方式として、全国的に注目され大きな反響をよんでいる。顕彰会が単独で主宰する、全国レベルのメジャーな文学賞として位置づけられて、回を重ねるに従って中央の文壇、マスメディアからも注目されるようになり、文学界でも高く評価されている。

(写真を含めて情報は中山義秀記念文学館・図書館の WEB ページから引用・抜粋)

・椋鳩十記念館・図書館

所在地：〒395-1101　長野県下伊那郡喬木村 1459-2 番
電　話：0265-33-4569
開　設：1992 年
床 面 積：845 ㎡
奉仕人口：７千人
蔵書冊数：6 万 4 千冊
開館時間：火～木：午前 10 時 ～午後 6 時、金：午前 10 時 ～午後 8 時、
　　土・日：午前 10 時 ～午後 5 時
休 館 日：　毎週月曜日・毎月第一火曜日、祝日、年末年始

記念館・図書館の前景

（記念館には入館料として村内居住者を除き大人 200 円　小中学生 100 円必要）

記念館には、椋鳩十の児童文学、動物文学等に関する幅広い研究物、資料を展示。併設の図書館には、児童図書を中心とした約５万冊の蔵書がある。

椋鳩十（むくはとじゅう 1905～1987）本名・久保田彦穂、喬木村に誕生。 大学卒業後、鹿児島県に教員として赴任後作家活動を始める。 戦後、鹿児島県立図書館長となる。『片耳の大鹿』『孤島の野犬』などを発表。戦時中に命の尊さと勇気や友情を訴えた作品は高く評価され、全国の小中学校の教科書に採用されている作品は数多く、その作品は海外でも高く評価されている。また、「母と子の 20 分間読書運動」を展開するなど、図書館活動、文化活動にも大きく貢献した。1952 年文部大臣奨励賞受賞、1961 年未明文学奨励賞受賞、1964 年サンケイ児童出版文化賞受賞、国際アンデルセン賞国内賞受賞、1971 年赤い鳥文学賞受賞、児童福祉文化奨励賞受賞。[白川市立]中山義秀記念文学館・図書館と同様「ふるさと創生事業」基金を利用して記念館及び関連施設を整備した。

記念館内部

館名に因んだ記念行事：椋鳩十「夕焼け祭」を記念館・図書館が例年開催今回で 21 回。椋文学読後感想文コンクール表彰式やアトラクション、記念講演などを開催。(写真を含めて情報は椋鳩十記念館・図書館の WEB ページから引用・抜粋)

鹿児島市は、市制施行 100 周年を記念し、日本を代表する児童文学者椋鳩十氏の業績を永く顕彰するとともに、児童文学の発展に寄与するために氏没後の 1990 年に椋鳩十児童文学賞を創設。国内で前年刊行された新人の初刊本（詩、童謡、絵本、ノンフィクションを除く）のみを対象としており、児童文学作家の登竜門と言われている。2009 年には 19 回となる。（鹿児島市の文化〉文学賞〉第 20 回椋鳩十児童文学賞の WEB ページから引用）

・新温泉町立加藤文太郎記念図書館

所在地：〒669-6702　兵庫県美方郡新温泉町浜坂 842-2

電　話：0796-82-5251

開　設：1994 年

床 面 積：1,153 ㎡　2 階建て
奉仕人口：17､800 人
蔵書冊数：7 万 7 千冊
開館時間：月～金曜日　午前 10 時～午後 6 時
　　土・日曜日　午前 10 時～午後 5 時
休 館 日：毎週木曜日、第 3 火曜日（図書整理日）及び第 4 月曜日
　　（いづれも祝日のときは翌日）、年末年始・特別図書整理期間
館内施設：１階　一般、児童室、ＡＶコーナー、お話室、対面朗読室等
　　２階　加藤文太郎資料室、山岳図書閲覧室（4,397 冊）、視聴覚室等
名称の由来・施設の特徴：新温泉町浜坂町浜坂出身の登山家・加藤文太郎（1905～1936）

氏は登山を 1923 からはじめ、1928 頃から単独行を重ね、積雪期の八ケ岳、槍ケ岳、立山、穂高岳、黒部五郎岳、笠ケ岳など果敢な山登りを展開した。中でも冬の槍ケ岳単独登頂は、当時の新聞や岳人たちを驚かせた。岳人たちから「単独登攀の加藤」「不死身の加藤」と呼ばれ、日本の登山界に不滅の足跡を残し、国宝的な存在として賞賛されるまでになった。1936 吉田富久氏と槍ケ岳北鎌尾根に挑むが、猛吹雪にあい天上沢で 31 歳の青春を終えた。文太郎の死をある新聞は、“国宝的山の猛者槍で遭難”と伝えた。彼の山行と劇的な生涯は新田次郎によって、小説『孤高の人』として描かれ、山を愛する人々の心の中に今も感動を呼び起こしている。加藤文太郎氏を顕彰して建設された図書館で、彼が駆け巡った山々をイメージし、階段の壁、書架のサインなど細部にわたり山のイメージを大切しています。２階は加藤文太郎の遺品や資料を展示し、日本でも屈指の山に関する図書や雑誌などの資料を所蔵している。山の哲学者串田孫一詩人尾崎喜八らが創刊した伝説の山の文芸誌『アルプ』、創元社発行も全巻揃いでないが、11～最終号 300 号（1983.2）を所蔵しているとのことである。（新温泉町立加藤文太郎記念図書館 WEB ページから引用・抜粋）

ブラウジングコーナー（１Ｆ）

おはなし室（１Ｆ）

児童開架（１Ｆ）

山の稜線をイメージ階段

閲覧テーブルからみる山をイーメジした書棚

２階　槍ヶ岳をバックの加藤文太郎レリーフ

加藤文太郎資料室（２Ｆ）展示品

・日田市立淡窓図書館

所在地：〒877-0003　大分県日田市上城内町 1-72

電　話：0973-22-2497

創　設：1916 年日田郡教育会が咸宜園敷地を広瀬家より借り、名称を広瀬淡窓に因んで淡窓図書館として設置。1948 年日田市に移管され日田市立淡窓図書館となる。1989 年現在地に新築移転

床 面 積：1,534 ㎡　2 階建て

奉仕人口：7 万 5 千人

開館時間：火曜日～土曜日　午前 10 時～午後 7 時、日曜日　午前 10 時～午後 6 時

休 館 日：月曜日、国民の祝日、年末年始、館内整理日（毎月第 4 木曜日）

蔵書冊数：14 万 7 千冊

広瀬淡窓　1782（天明 2）～1856（安政 3）江戸後期の詩人・学者・教育者として著名。1805 年家塾成章舎開設、1817 年咸宜園を創設した。熟生は陸奥、越後、相模、

丹波、佐渡などの遠隔地からも咸宜園に入園しており、盛時には前後して３千人余の塾生が学んだ記録が残されている。豊後の３賢（三浦梅園、帆足萬里、広瀬淡窓）と称された。

日田市立淡窓図書館蔵書の最大の特色は梅木幸吉著『大分県図書館史』、1986 によれば、「咸宜園創設者廣瀬淡窓はじめ旭荘・青村等廣瀬碩学の人々、及び... 中略... いわゆる咸宜園蔵書 5,000 冊を廣瀬家より委託を受け、別棟建築の書庫に架蔵しているので、咸宜園塾の教育や廣瀬淡窓の思想・学問・文学等、その人間像を研究する人々にとっては真に貴重な資料の宝庫である。尚この架蔵されている咸宜園蔵書については、九州大学の手に依って蔵書目録が作成されている」と記されている。また、妹尾好信著「日田市立淡窓図書館所蔵和書分類目録」によれば、「淡窓図書館の蔵書は、数千冊に及ぶ咸宜園旧蔵書がその中核を成していたのであるが、現図書館への移転にあたって、その大部分は廣瀬本家に返却され、廣瀬先賢文庫の所蔵となった（『廣瀬先賢文庫目録』廣瀬貞雄監修中村幸彦井上敏幸共編思文閣出版 1955 年）。そのため、現在の市立淡窓図書館には、和装図書など廣瀬家や他家からの寄贈図書数百点が残っている。その詳細については、妹尾好信著「日日市立淡窓図書館和書分類目録」として広島大学大学院研究科内海文化研究施設『内海文化研究紀要』第 30 号に記載されている。なお、咸宜園関係の蔵書目録として 1967 年日田市立淡窓図書館発行の『廣瀬家より委託咸宜園蔵書目録』、1970 年謄写版刷杉本勲編『大分県日田市立淡窓図書館保管咸宜園蔵書目録』、杉本勲編　『廣瀬家古文書撮影フィルム目録』、九大文学部九州文化史研究施設、1970 などがある。

・中津市立小幡記念図書館

所在地：〒871-0056　　大分県中津市片端町 1366-1
電　話：0979-22-0679
創　設：1909 年、1993 年現在地に移転
床 面 積：2,892 ㎡　２階建
奉仕人口：８万６千（全市対象）、市内に三光、本耶馬渓、耶馬溪、山国計５館
蔵書冊数：22 万２千冊(記念図書館の冊数)
開館時間：火～土曜日　午前 10 時～午後７時、日曜日　午前 10 時～午後６時
休 館 日：月曜日、国民の祝日、年末年始
名称の由来：福沢諭吉の高弟小幡篤次郎（1842～1905）明治期、英学者・教育家・思想家。逝去の直前に中津出身の後輩和田豊と甲斐織衛に「中津に在る予誕生地（三百四十坪 1,029 ㎡）は今予が所有に属するを以て、この地所と他に予が蔵書を折半して、半は慶応義塾に留め半を寄附すへけれは郷党青年子弟の為又社会教育の為に中津に一図書館を建設する計画を立てられたし」と遺嘱した。小幡篤次郎氏の没後和田・甲斐の二人は小幡家や友人に諮り東京と中津に委員をおき図書館設立の寄付金募集に着手し、1908 年建築設計図作成、1909 年工事着工、1909 年 11 月に竣工し、小幡篤次郎氏の蔵書と旧中津藩校「進脩舘」蔵書の郡役所に保管していたものを収容して、中津市 1385 番地（殿町）に中津図書館と命名して開館した。その後維持運営の募金活動を行い、1912 年財団法人に組織を改め旧藩

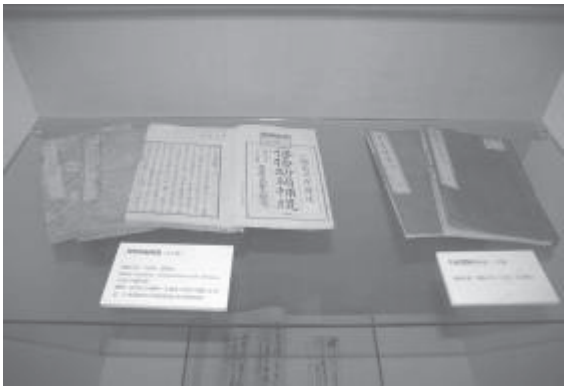
主奥平家の奥平伯爵を館長に迎え、元来この図書館は小幡篤次郎氏の遺志に基づくものであるから、中津図書館の名称は妥当でないとして、小幡記念図書館と改称した。
1947 年財政事情などにより中津市に移管され、名称を中津市立小幡記念図書館と改称。
1993 年設立当初の場所から現在地に新築移転。旧図書館は「中津歴史民俗資料館」として存続し、1997 年に国の登録文化財に登録された。

写真 : 現図書館前景

1992 年までの図書館、現在「中津歴史資料館」

蔵書の特色

小幡篤次郎氏の遺嘱による蔵書が図書館のスタートとなっており、それが小幡文庫として保存されている。文庫には小幡篤次郎の著書及び中津市学校（1871 年設立 1883 年閉校の英語学校小幡篤次郎校長）で使用の英語原書も多数保管されている。蔵書目録（The English Books used at Nakatsu）があり、その中には Encyclopedia….がある。また福沢文庫（福沢諭吉の著書及び慶応義塾門下の著作 217 冊）など郷土の先覚者の著書，手沢本が保管蒐集されている。更に奥平藩が丹後の宮津より中津に移封された 1717（享保 2）年から廃藩置県までの藩政資料及び惣町大帳（町役人の日記）が所蔵されている。



中津市学校で使用の書籍の一部

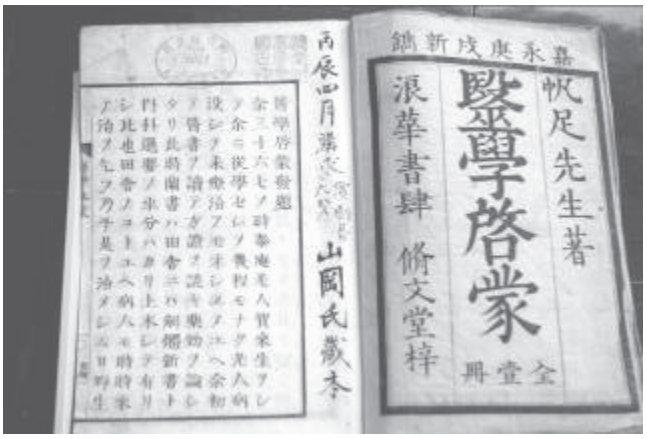
1842 年　中津藩士小幡篤蔵の次男として中津殿町に生まれる。
1864　　福沢諭吉に誘われ慶応義塾に入塾。
1866～1867　慶應義塾塾長をつとめる。
1871　　福沢諭吉との共著『学問のすゝめ』発行。

1877　　欧米各国を歴訪。
1890　　慶応義塾の大学部設置にあたって塾長の任に就く。
1905　　死去、享年 64 歳。
（中津市立小幡記念図書館 WEB ページから抜粋、引用）

・日出町立萬里図書館

所在地：〒879-1506　大分県速見郡日出町 2602-2
電　話：0977-72-2851
創　設：1910 年　1983 年現在に移転
床 面 積：502 ㎡、2 階建て
奉仕人口：2 万 8 千人
開館時間：午前 10 時～午後 6 時
休 館 日：月曜日、第２・４・5 日曜日、年末年始
蔵書冊数：5 万冊
創設：1910 年旧日出藩主家木下俊哲、帆足恒雄(萬里の孫)その他有志の発起で帆足記念文庫(所蔵冊数和漢書 1,870 冊洋書 25 冊)をもって創立、大正期(年代不詳)に帆足記念図書館と改称、1928 年財団法人となる。1950 年速見郡日出町に移管され、日出町立萬里図書館と名称を変更。創立以来設置場所は数度の変遷を経て現在地に移転。1983 年現在の図書館を新築。
帆足萬里 1778(安永 7)～1852(嘉永 5)年、豊後の三賢と称され、学問的に三浦梅園の後を継ぎ、その合理的精神、実学重視の姿勢は福沢諭吉に受け継がれたとされている。また教育者として 1803（享和 3)年家塾を開き翌年藩学教授となり、滝平之進(滝廉太郎の祖父)等の門弟を育てる傍ら、オランダ語を独力で学び日本で最初とも言われる自然科学書『窮理通』や『医学啓蒙』『井楼纂聞』『入学新論』『東潜夫論』等々を著す。一方日出藩の家老職に就き藩政の改革を務めるとともに、幕末期諸外国の侵攻に備えるために海防の必要性を訴えるなど広範な分野で活動した。
萬里図書館の特色　蔵書として、1971 年帆足萬里 120 年祭に展示された帆足萬里関係図書目録の中には、文政 2 年写し、天保 15 年、弘化 4 年、嘉永 3 年刊行の図書などともに、『窮理通』の訳述に使用した藤林普山著『訳鍵』上下巻、[1810]、ラランデ著『ラランデ天文志』、1773。ハルマ著『ハルマ蘭仏・仏蘭辞典』、1781。ウイルデノ著『ウイルデノ本草学』、1818 や弟子達の著書なども所蔵して帆足萬里・豊後学の研究には必須の図書館となっている。1926 年帆足記念図書館は独自の事業として 15 年間をかけて、『帆足萬里全集』上下巻 A5 版 1,259 頁を刊行した。また、所蔵している貴重書として保存している帆足萬里の著作をデジタル化作業中で、『窮理通』を終え、現在『ラランデ天文志』に取りかかっており、近いうちに全著作のデジタル化を立案中とのことである。デジタル化された資料は、利用の際物理的に損傷したり化学的に劣化することはない。WEB 上で公開されれば、自宅などに居ながらにして資料の閲覧が可能となり、利用者の便宜は大きく、今後の

図書館の正面玄関



上部及び下部左 貴重書の一部の写真

上部右写真、下部写真デジタル化された『窮理通』の表紙及び本文の一部

展開が望まれる。創立が大分県では、1909 年の中津市立小幡記念図書館に続いて 1910 年

と古い図書館である。

大分県では分館を含めて 28 館が設置されているが、その中で 3 館が「日田市立淡窓図書館」、「中津市立小幡記念図書館」、「日出町立萬里図書館」と呼称の中に個人名を冠しているが、全国的に非常に珍しい事例である。

この紹介記事を作成するため、当該図書館の WEB からの引用・抜粋の許可や、また各種問い合わせに際して、懇切に対応頂いただいたことに謝辞を申し上げる次第である。

『日本の図書館』に個人名が付されている公共図書館は以上であるが、現在の公共図書館の中に、発足当時個人が大きく関与して設立され、個人名が付されて財団法人として発足したが、諸事情から地方自治体に移管後、個人名はとられ、〇〇市町村図書館など呼称され、積極的に調べない限り図書館設立の経緯を知ることができなくなっている図書館がある。何らかの形で利用者に先人の貢献を知ってもらうことも必要なことである。

他に図書館名に個人名が付されていないが、文学者記念館（室）を併設している公共図書館が相当数存在する。中野重治記念文庫、小葉田淳記念文庫を併設する福井県坂井市立丸岡図書館は、文学者記念館（室）を伴う公共図書館ネットを 14 館で構築していた。現在リンクきれとなっているが、参加館 14 館の一覧を見ることができ参考となる。

全国文学館協議会編『全国文学館ガイド』、小学館、2005 によれば文学館・記念館は数百に達し、その中から主要な約 80 館が集まって上記協議会を組織しているとのことである。その目次をみれば、地域別に北海道から九州までに 75 の記念館がとりあげられている。巻末に全国文学館一覧及び文学者別 50 音別 INDEX が付されている。一例として、索引から井上靖を検索すると 11 の記念館などをみることがでる。

また、淡交社編『日本の文学館百五十選』、1999 には上記『全国文学館ガイド』に記載されていない文学館も掲載されている。一例として「椋鳩十文学記念館」は、氏が生前教師とし赴任し居住していた鹿児島県姶良郡加治木町に設置されたことを知ることができる。

参考・引用文献（本文中に記述した文献は省略している）

梅木幸吉著『大分県図書館史』、1986
西日本図書館学会編『九州図書館史』、編者、2000
工藤豊彦著『広瀬淡窓・広瀬旭荘』、明徳出版社、1978
狭間久著『帆足萬里の世界』、大分合同新聞文化センター、1993

（あざかみ・かつや　別府大学非常勤講師）